

平成28年度第5回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要

開催日時	平成 28 年 10 月 3 日 16 時 ~ 16 時 30 分
開催場所	小山田記念温泉病院 第3会議室
出席委員	毛受、森、北村、原、山中、伊藤、浅野、坂(敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	一色 高彰
研究名	脳卒中後の意識低下が回復期リハビリテーション病棟患者の身体機能面、ADLに与える影響
研究内容 要旨	集中的なリハビリが行われる回復期病棟において、円滑なリハビリを阻害する因子として意欲低下がある。意欲低下が回復期リハ病棟におけるリハビリの効果に与える影響について検討している報告は少ない。また、回復期病棟での重要な目標の一つはADLの向上であるが、意識低下がADLへ与える影響についても報告が少ない。そこで、今回は意識低下がリハビリの効果として考えられる身体機能面、ADLに与える影響を検討し明らかにすることを目的とする。
審議結果	条件付承認
意見	ADL,PCなどの略語は初出時にフルスペル、和訳を併記する。
新規研究計画の審議	
申請者	伊藤 亜衣
研究名	認知機能低下を認める要支援、要介護者と同居する主介護者間における情報共有ノートの利用による介護負担感の変化
研究内容 要旨	介護負担の評価として、主介護者に対して日本語版Zarit介護負担尺度、うつ評価を用い、それと同時に疾患や身体の痛みの有無、在宅介護開始からの期間、1日の介護時間等について聞き取り調査を行う。要介護者にはMMSE、FIMの評価を行う。そして、主介護者において現在の介護状況や悩み事など他主介護者と情報共有できるノートを使用し、介護負担の変化について明らかにする。
審議結果	差し戻し
意見	研究の日程(評価実績、情報共有ノート利用の時期)についてわかりやすく記載する。情報ノート共有時の個人情報保護の方法についてもわかりやすく記載する。
新規研究計画の審議	
申請者	北井 真紀子
研究名	ケアマネージャーから見た連携しやすい訪問看護師の特徴
研究内容 要旨	増加する在宅療養者を支えるためには、様々な職種が協働していくことが必要である。その中で訪問看護師は、円滑な在宅ケアチームの構築や協働のために、チームの要となるケアマネージャーと十分な連携を行う必要がある。しかし、ケアマネージャーは訪問看護師との連携に困難さを感じていることもある。そこで、ケアマネージャーが連携しやすいと感じる訪問看護師の特徴を明らかにすることを目的とし研究を行うこととした。
審議結果	承認
意見	書類審議を行い、インタビューの内容について計画書、資料に記載することが望ましいとの意見が出されました。その意見に沿って計画書、資料が訂正されたことを確認し、承認としました。